

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

四国では、コウノトリ・ツル類を広域指標として「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立され、生態系ネットワークの形成による「魅力的な四国づくり」の実現に向けて、取組が進められています。

2017年10月に「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、吉野川流域での取組を推進してきました。コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していること、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する取組の情報共有・連携を図ることを目的に、2021年1月に、吉野川流域から徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行しました。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目的

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全・再生による生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

：「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」（2021年1月）

		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信						
	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】	・第1回協議会	・第2回協議会 全体構想の策定	・第3回協議会	・新型コロナウイルス感染症の影響により延期	・第4回協議会 (書面開催)	・第5回協議会	・第6回協議会
	徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2021年1月15日発展移行】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信			全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信			
	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】		旧吉野川での自然再生によるコウノトリの生息環境づくりの検討					
	旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】							旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討 ・第1回～第3回会議
	旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】							旧吉野川の自然再生地の整備・利活用の検討 ・第1回会議
鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】			コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討					
				・第1回～第2回会議	・第3回～第4回会議	・第5回～第6回会議	・第7回～第8回会議	・第9回会議

指標種・シンボルとしてのコウノトリ・ツル類

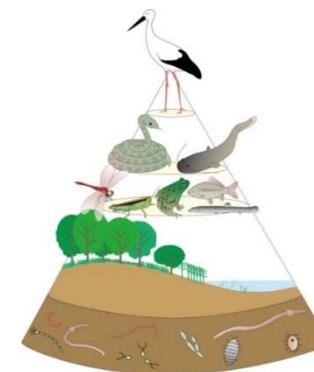
徳島県流域において、以下の2つのシンボル性により、徳島県全体の広域的な指標種として、コウノトリ・ツル類を共通の指標・シンボルに設定しています。

①多様で豊かな生きものと自然環境のシンボル

コウノトリ・ツル類は、里地里山や河川の生態ピラミッドの頂点に立つ、高次消費者である。コウノトリやツル類が、その地域に生息することは、食物となる多くの生きものが育まれる豊かな自然環境がある証であり、生態系サービスの質が高いことを意味する。

②自然と共生する社会のシンボル

コウノトリ・ツル類は大型の鳥類で、美しくよく目立つことから、取組の効果を実感しやすい生きものである。また、地域の人々の関心や支持を集めやすく、行動を引き出すことにつながる。コウノトリ・ツル類がくらしているという物語を付加価値とする生産物の販売や観光の推進、地域の交流人口の増加といった社会や経済の活性化への効果も期待できる。



コウノトリは、保護増殖と放鳥が進められ、日本国内の野外個体数が300羽を超え、繁殖地も増加しています。一方で、人為的要因による事故も増えてきています。ツル類は、鹿児島県出水市に一極集中して越冬している状態にあり、2022年度は、高病原性鳥インフルエンザに感染して回収された個体数が過去最多となりました。越冬地の分散化に向けた取組を加速化することが重要となっています。

日本国内のコウノトリの生息の現況



- ◇1971年に日本の野生コウノトリは絶滅した。その後、コウノトリの保護増殖と放鳥が進められ、国内の野外個体数は徐々に増加して、2022年に300羽を超えている。全国各地でコウノトリの飛来が確認されており、国内繁殖地も増えている。2023年に、全国12府県49巣で野外コウノトリが繁殖し、うち42巣から105個体の幼鳥が巣立った。
- ◇コウノトリの野外個体数が増加する一方で、防獣ネットに絡まる、交通事故に遭う、送電線に衝突する、水路にはまり出られなくなるなど、事故に遭い救護されるケースも増えてきている。
- ◇秋から冬にかけて、兵庫県南部と香川県のため池にコウノトリが集中する傾向があり、1つの池で50羽を超えることもある。2022年11月に、香川県丸亀市のため池で死亡していたコウノトリから高病原性鳥インフルエンザが検出され、国内では初めてコウノトリの感染が確認された。極度の集中によって過密状態になり、感染症にかかるリスクが高まることが懸念されている。

日本国内のツル類（ナベヅル・マナヅル）の生息の現況



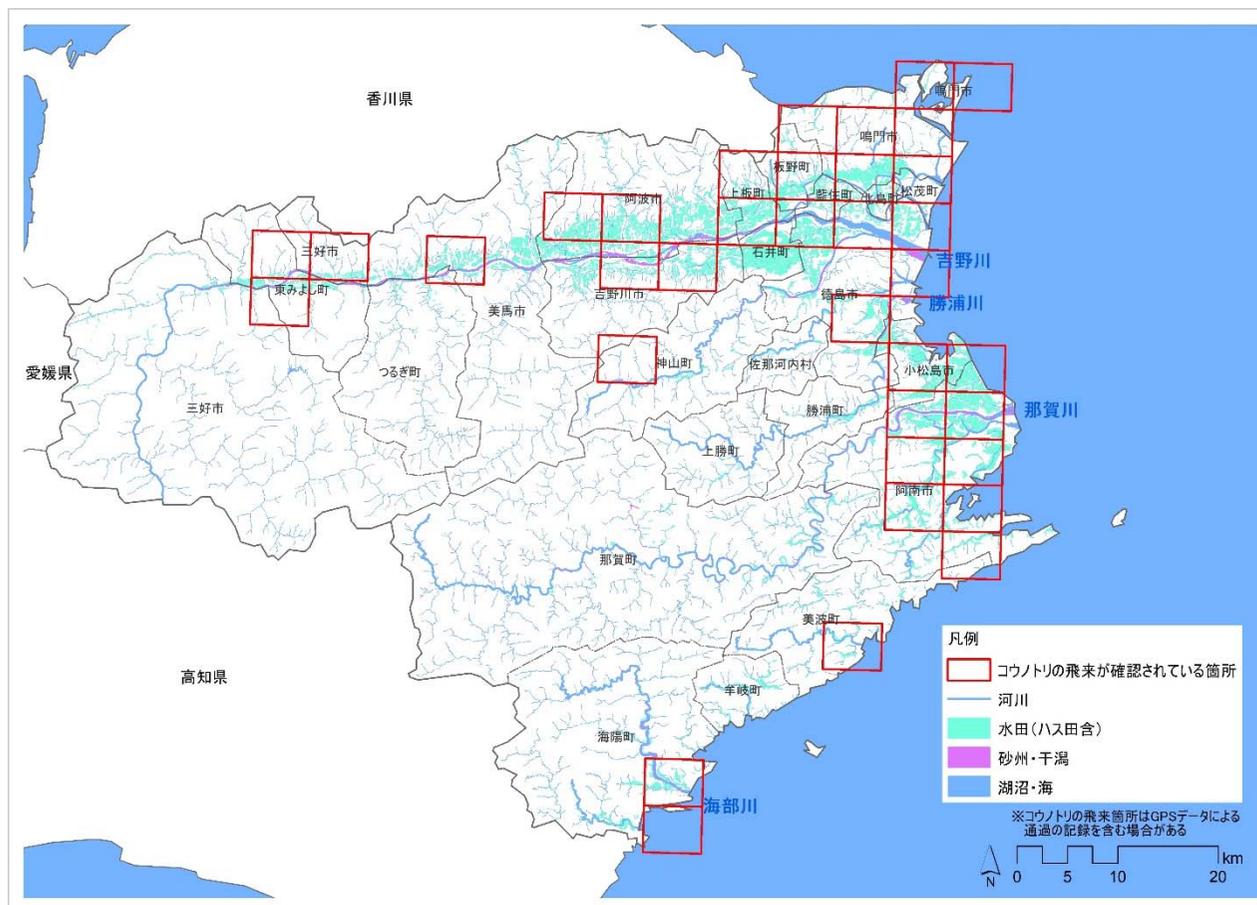
- ◇かつては日本国内の各地にナベヅル・マナヅルの越冬地があったが、その多くは消滅している。現在、鹿児島県出水地方では、保護区の設置、給餌等の長年の努力により、1万羽以上のナベヅル・マナヅル等のツル類が越冬している。
- ◇2022年度に、鹿児島県出水市及び阿久根市、長崎県諫早市で回収されたナベヅル、マナヅルの個体から高病原性鳥インフルエンザが検出された。出水市で高病原性鳥インフルエンザに感染して回収された個体数は、過去最多となる約1,500羽であった。
- ◇出水市での一極集中は、大量死を招くリスクがあることから、分散化に向けた取組を加速することが重要となっている。出水市では、ナベヅル・マナヅルの分散に向けて、2020年からツル類への給餌量を削減する取組を開始している。

徳島県でのコウノトリの飛来・生息状況

徳島県では、2015年頃からコウノトリの飛来が増え、特に吉野川周辺や那賀川周辺で確認されています。吉野川周辺の鳴門市では、1ペアが2017年から7年連続で繁殖に成功しています。

■徳島県内での繁殖状況

○鳴門市へ2015年2月にコウノトリ2羽が飛来し、4月に巣づくりを始めたものの産卵には至らず、2016年は産卵したものの抱卵が放棄された。2017年に、兵庫県豊岡市周辺以外では初めて野外繁殖に成功し、3羽が巣立った。このペアは「鳴門板東ペア」と呼ばれ、2018年に2羽、2019年～2023年の各年に3羽のひなを巣立たせている。



徳島県でのコウノトリの飛来・生息箇所（2000年1月～2024年1月までの情報をもとに整理）

※千葉県野田市、福井県より2023年12月までのGPSデータの提供を受けた

「国土数値情報(行政区画データ)、(河川ラインデータ)」「国土交通省」、「1/25,000植生図GISデータ」(環境省生物多様性センター)をもとに作成

徳島県でのコウノトリの飛来・生息状況（2023年1月～2023年12月）

希少種情報につき取り扱い注意

2023年1月～12月にかけて、徳島県内では、吉野川周辺や日和佐川周辺でコウノトリの飛来があり、1年を通して、過去最多となる147羽のコウノトリが県内へ飛来したことが確認されました。吉野川周辺の鳴門市大麻町で営巣している「鳴門板東ペア」は、7年連続で繁殖に成功しています。一方で、県内でコウノトリの負傷による死亡事例が確認されています。

日本国内では、野外のコウノトリが371羽（2023年12月31日時点）となっており、全国的に見て、徳島県内には多数のコウノトリが飛来しています。また、2023年には12府県49巣でコウノトリの繁殖が確認されています。

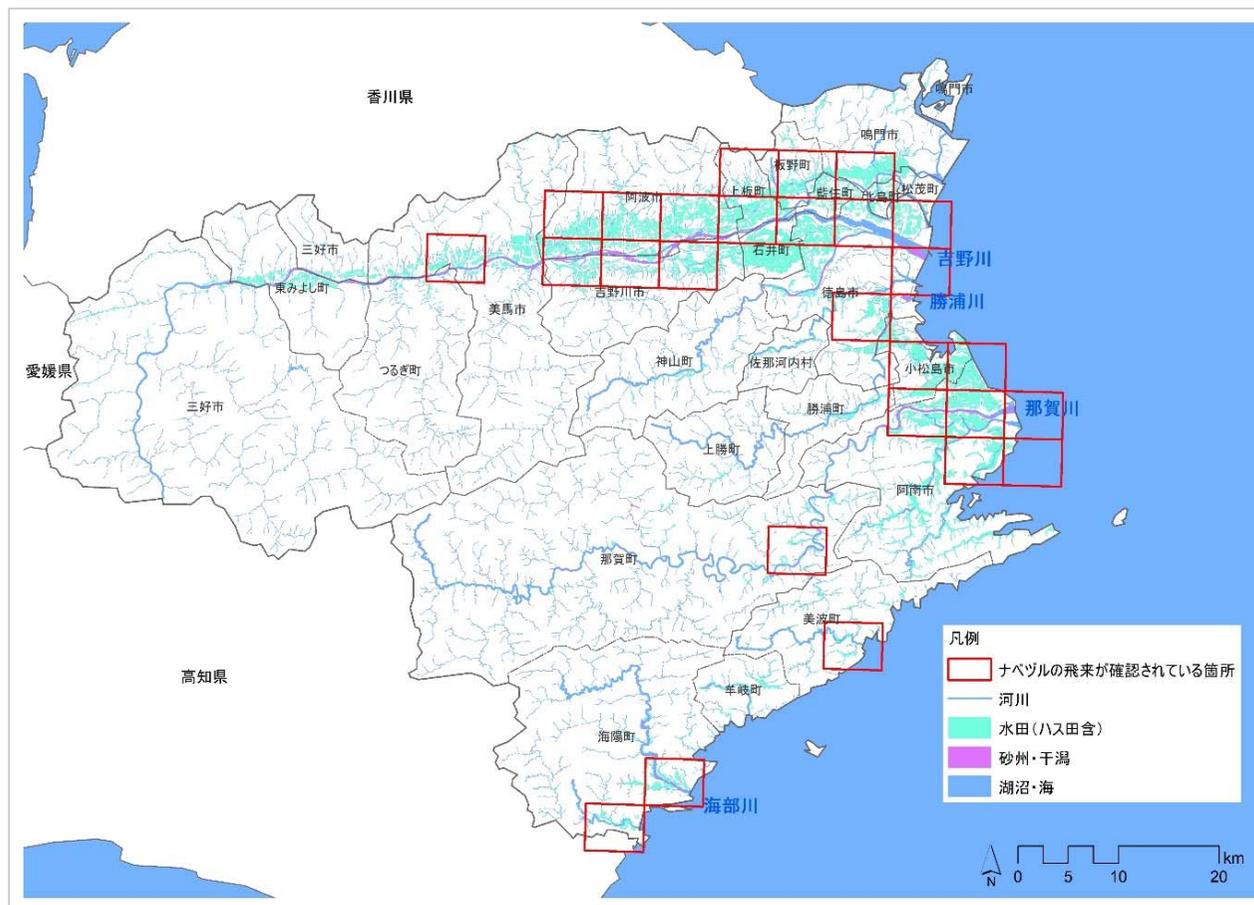
希少種情報につき、委員のみ

徳島県でのツル類の飛来・生息状況

徳島県では、2010年度頃からツル類（主にナベヅル）の確認羽数が増えています。徳島県へ飛来するナベヅルは、主に吉野川、那賀川、海部川の砂州や干潟の浅瀬をねぐらとして利用し、周辺の農地で落穂や二番穂等を採食します。近年は、毎年ナベヅルの飛来が確認されているものの、安定した越冬には至っていません。

■徳島県内での越冬状況（1月中旬の10日間の滞在の記録を越冬としている。）

○徳島県内では、近年、2020年度に吉野川周辺で8羽、2023年度に那賀川周辺で6羽のナベヅルの越冬が確認されている。2017年度～2019年度、2021年度～2022年度は、各年度ともナベヅルが飛来したが、越冬することはできなかった。



徳島県でのツル類の飛来・生息箇所（2000年10月～2024年1月までの情報をもとに整理）

「国土数値情報（行政区域データ）、（河川ラインデータ）」（国土交通省）、「1/25,000植生図GISデータ」（環境省生物多様性センター）をもとに作成

徳島県でのツル類の飛来・生息状況（2023年10月～2024年1月）

希少種情報につき取り扱い注意

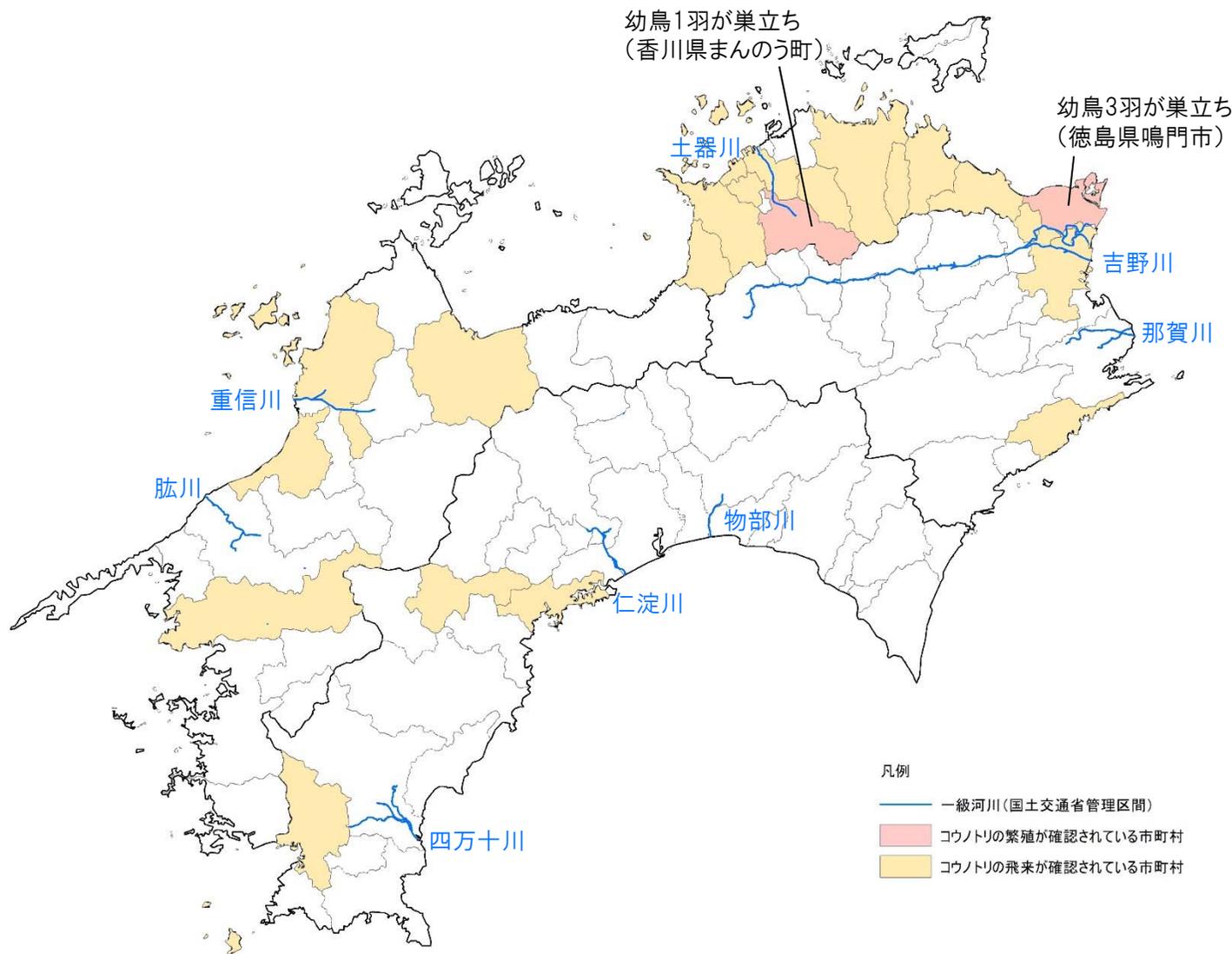
2023年10月～2024年1月にかけて、徳島県内では、那賀川周辺と海部川周辺でナベヅルの飛来が確認され、那賀川周辺で6羽のナベヅルが越冬しました。

日本国内では、今期も鹿児島県出水市での2024年1月7日のツル羽数調査で、12,972羽のツル類が確認されています。出水市以外では、山口県周南市で3羽、四国内で13羽のナベヅルの越冬が確認されています（2024年1月31日までに得られた情報による）。

希少種情報につき、委員のみ

(参考) 四国におけるコウノトリの飛来・繁殖の状況 (2023年1月～2023年12月)

2023年に、四国では各県へのコウノトリの飛来があり、特に吉野川周辺と香川県内のため池で多くの飛来が確認されました。また、香川県まんのう町でコウノトリ1ペアが繁殖に成功し、2023年7月に1羽の巣立ちが確認されました。徳島県鳴門市に続き、四国で2箇所目の繁殖成功となります。

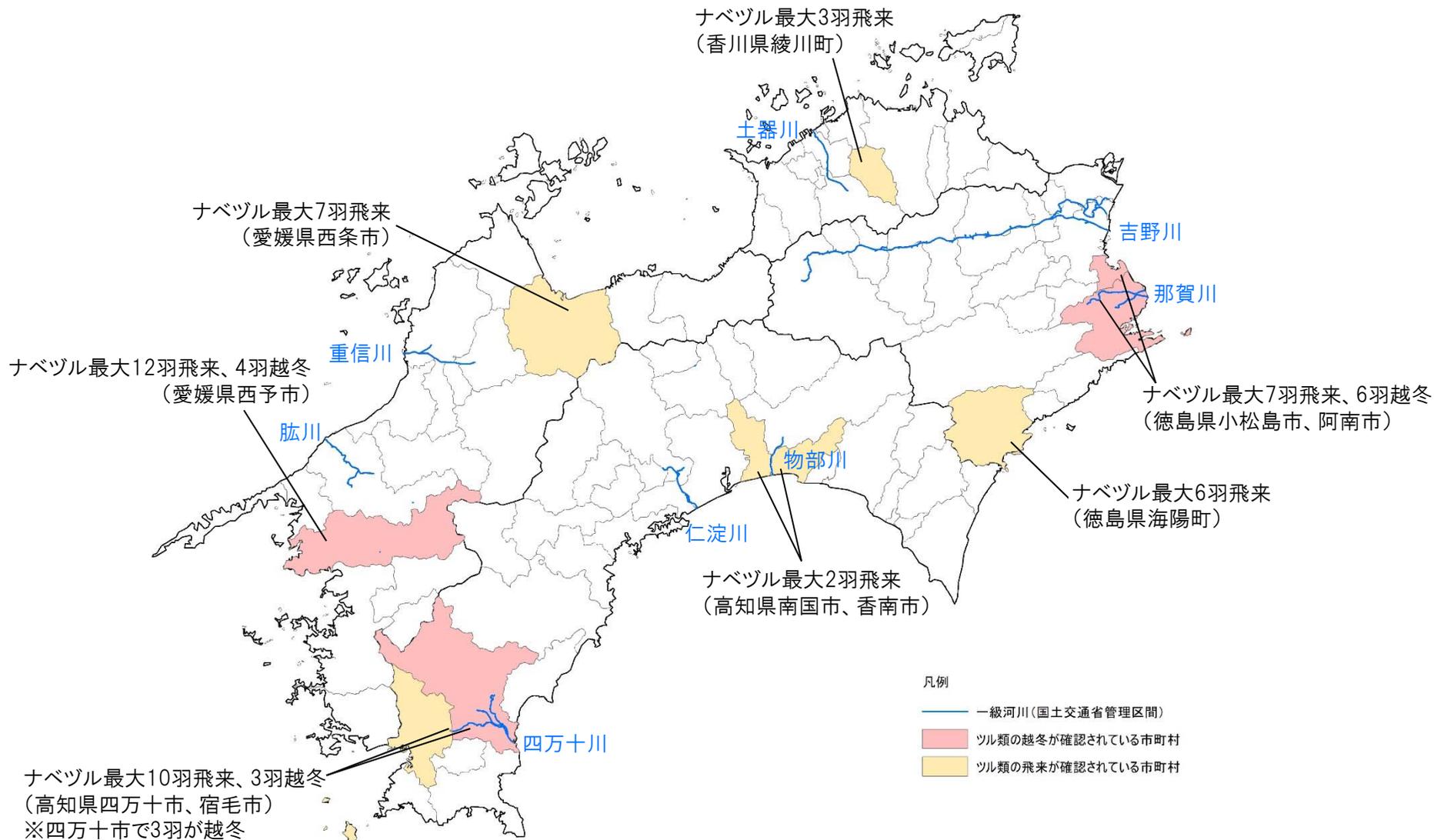


四国におけるコウノトリの飛来・繁殖の状況(2023年1月1日～2023年12月31日)

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)をもとに作成

(参考) 四国におけるツル類の飛来・越冬の状況 (2023年10月～2024年1月)

今期 (2023年10月～2024年1月) は、四国において、徳島県小松島市、阿南市、海陽町、香川県綾川町、愛媛県西条市、西予市、高知県南国市、香南市、四万十市、宿毛市でナベヅルの飛来が確認されています。



四国におけるツル類の飛来・越冬の状況(2023年10月1日～2024年1月31日)

「国土数値情報(行政区域データ)、(河川ラインデータ)」(国土交通省)(<https://nlftp.mlit.go.jp/ksj/>)をもとに作成